

地方独立行政法人筑後市立病院経営強化プランに係る実績報告書

計画期間：2023（令和5）年度～2026（令和8）年度

2024年6月

地方独立行政法人

筑後市立病院

1. 項目別の実績値

経営強化プランに掲げる数値目標のうち、業務実績報告書（中期計画）に記載のない事項について、下記のとおり実績を報告いたします。業務実績報告書と重複する事項については、省略しています。

II 役割・機能の最適化と連携の強化		4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
連携の強化等に係るもの	公立八女総合病院との連携事例数	2事例以上	0事例
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 公立八女総合病院とより一層の連携強化を図る「八女・筑後公立病院連携強化協議会」の2024年度設置のため、公立八女総合病院との協議調整を行った。そのため今年度は連携事例策定までには至らなかった。 <p>【関連項目】中期計画：第1-1-(3)診療機能の整備</p>			

II 役割・機能の最適化と連携の強化		4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
その他	初期臨床研修医数（年度当初）	2名以上	2名
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 2023年4月より総合診療専門医1名を受け入れた。2025年開始希望の他院の研修医とプログラム責任者との面談を実施した。 マッチングサイトの利用、久留米大学関連病院と連携した研修診療科の充実を図った。2023年からは聖マリア病院とも連携し、研修医の選択肢を増やし、魅力的な初期臨床研修となるよう取り組んだ。 <p>【関連項目】中期計画：第2-1-(1)医療スタッフの確保</p>			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
収入確保に係るもの	患者1人1日当たり入院収益	55,600円以上	47,044円
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規加算の取得を目指し、認知症チームの体制を強化することにより認知症ケア加算の類上げを実施した。 ・ 新型コロナ入院患者数の減少や、整形外科領域において脊椎の症例減等により診療単価は47,044円と前年度より3,354円低くなり、目標値から乖離する結果となった。 <p>【関連項目】 中期計画：第3-1-(1) 収益の確保と費用の節減</p>			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
収入確保に係るもの	患者1人1日当たり外来収益	15,100円以上	16,091円
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における外来機能の明確化・連携を進める観点から、令和5年8月に紹介受診重点医療機関となった。そのため紹介状持参の患者を中心とする診療となったため、軽度の症例が減り単価上昇へ繋がった。 <p>【関連項目】 中期計画：第3-1-(1) 収益の確保と費用の節減</p>			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
経費削減に係るもの	材料費対修正医業収益比率	20.0%以下	20.3%
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品について、年2回の薬価交渉にベンチマークを活用した結果、妥結単価の値引率の平均は、全国自治体病院協議会の全国平均値を約1%上回ることができた。また、医薬品在庫管理システムを導入し、温度管理が必要な高額医薬品の品質や在庫、発注の適正化に努めた。 ・ 診療材料について、年2回の価格交渉にベンチマークを活用した。また、診療材料検討委員会で費用対効果の検証と同効同種への切り替え可否の検討を行った結果、166品目で約160万円の費用削減ができた。 ・ 原材料価格上昇や輸送費コスト増加の影響を受け、目標値をわずかに上回った。 <p>【関連項目】中期計画：第3-1-(1) 収益の確保と費用の節減</p>			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
経費削減に係るもの	経費対修正医業収益比率	17.0%以下	19.5%
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業者選定時に仕様を見直して、費用節減に努めた。 ・ 検査室運用委託および複合機賃借について、契約を再延長することで設備更新に伴う費用上昇を抑えた。 ・ 照明器具等の更新について、内製化することによりコストを抑えた。 ・ ボイラの運用変更や空調機洗浄による運転効率化により、省エネに努めた。 ・ 人件費上昇や運用コスト増加の影響を受け、目標値を下回ることができなかった。 <p>【関連項目】中期計画：第3-1-(1) 収益の確保と費用の節減</p>			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（令和8年度）	実績値（令和5年度）
経営の安定性に係るもの	常勤医師数	30人以上	32人（年度当初）
主な取組内容と自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 令和6年4月より開始される「医師の働き方改革」に対応する取組として、土曜外来休診、医師変形労働時間制度を行い医師の就労環境の整備に努めた。 常勤医がいない診療科については理事長を中心に大学医局に訪問するなど出張医及び常勤医の派遣要請活動を行った。 <p>【関連項目】 中期計画：第2-1-(1)医療スタッフの確保</p>			

2. 総括

経営強化プランに係る実績については、「1. 項目別の実績値」のほか、業務実績報告書（中期計画）に記載のとおりです。これらを踏まえた全体総括は下記のとおりです。

- 地域の中核病院である公的医療機関として、地域の医療機関との連携をもって地域住民の命と暮らしを守る病院となるよう、全部門が目標達成に向けて業務に取り組んだ。しかしながら2023年の決算は、経常収支比率は92.4%となり前年度比で+7.6ポイント悪化し、純損失は約3億6,500万円（前年度比▲約3億6,736万円）の赤字となり、4年ぶりの赤字計上となった。収支改善には、病床利用率の上昇が喫緊の課題であり、持続可能な医療提供体制を確保のため、経営基盤の安定化に向けて取り組んでいく。